

sufficient+selenite groups, with mean, $336.75 \pm 57.90 \text{mg/dL}$ ($p=0.017$); and $306.20 \pm 92.90 \text{mg/dL}$ ($p=0.035$) respectively. Deficient control and sufficient+selenomethionine groups had the lowest HOMA-IR indexes. Adiponectin levels in all groups dropped at the end of the study period. Different from supplementation trials in human, these results showed that sufficient group gained benefit from selenomethionine supplementation as they were more glucose tolerant.

29. 筋萎縮性側索硬化症療養者への事前意思確認書の導入状況と課題

塚越 設貴,¹ 古田 夏海,¹ 牛久保美津子²

猪熊 綾子,³ 市川 幸恵,³ 富田千恵子³

渡邊 充子,⁴ 池田 将樹¹

(1 群馬大医・附属病院・神経内科)

(2 群馬大院・保・看護学)

(3 群馬大医・附属病院・看護部)

(4 群馬県神経難病医療ネットワーク)

【目的】筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 療養者は、病状進行に伴って生じる呼吸不全に対し、人工呼吸器を装着して生きるかどうかの重要な意思決定を迫られる。意思決定支援においては、当事者が納得のいくまで話し合うことが重要である。本院神経内科では、患者・家族と医療者との対話を促進し、意思決定プロセスを共有する目的で、事前意思確認書を2012年8月から導入した。今後の意思決定支援の充実をはかるため、事前意思確認書が使用された事例を分析し、課題を抽出した。【方法】事前意思確認書が使用された患者は9名（うち1名は2回使用）。それらの患者の診療録から、患者基礎情報、呼吸処置に対する意思表示をデータ収集したとともに、立ち会った看護職者から患者・家族の反応と看護師の意見をデータとした。事前意思確認書は、文献や他施設で使用されているものを参考にして案を作成した後、医師、神経内科看護相談看護師の意見をもとに修正を加えたものを完成版とした。【結果】患者は男性5名、女性4名、年齢は30～70歳代。事前意思確認書は、7名が外来診察時、2名が入院中に使用された。使用時点で、呼吸機能低下が認められた患者は2名であった。呼吸処置に対する患者の意思表示は、鼻マスク (NPPV) までは受けない3名、気管切開下人工呼吸器装着 (TPPV) の希望は3名、決められない2名、その他であった。患者と家族の反応は、「戸惑っていた」2名、「いつかは決めないと思っていたからありがたい」1名、「迷いなく即答」1名など。1例は看護師の立ち会いがなかった。【考察】今後の課題として、1. 事前意思確認書を使用するタイミングの検討、2. 継続的に使用する方法的検討、3. 院内外の支援者が協働

して意思決定支援ができるよう、主治医と神経内科看護相談看護師との連携強化、4. 事前意思表示は、国民の誰もが向き合う必要があり、ALSに特別なものではないとの認識を患者、家族、医療者側がもてるような教育の必要性が考えられた。

30. 乳癌治療に伴う食欲不振、味覚障害、リンパ浮腫などに漢方薬が著効を呈した1例

古川 和美, 大嶋 清宏, 中村 卓郎

萩原 周一, 大山 良雄, 青木 誠

村田 将人, 金子 稔, 田村 遵一

(群馬大医・附属病院・

救命・総合医療センター)

【緒言】乳癌治療に伴う各種合併症の治療は困難なことが少なくないが、今回味覚障害、手術後の上肢浮腫に対して漢方薬が著効を呈した症例を経験したので報告する。【症例】69歳女性 主訴 食欲不振、舌痛症、味覚障害、左上肢の浮腫、既往歴：1993年C型肝炎で治療。うつ病、ペースメーカー埋め込み後、現病歴 2010年7月乳癌で手術。その後化学療法施行。2012年7月食欲不振、舌痛、味覚障害があるため当科受診。補中益気湯エキス剤、六君子湯エキス剤を投与したところ、2か月後には症状が軽快した。また、左上肢に浮腫があり、現代的治療で改善しないため、9月より柴苓湯を処方したところ、1か月後には浮腫が消失した。その後再燃なく経過良好で現在に至る。【考察】乳がんの治療中に生じた舌痛症、味覚障害に対し、補中益気湯および六君子湯が有効であった。また、乳癌手術後の左上肢の浮腫に対して柴苓湯が著効を呈した。補中益気湯には、免疫力活性化、味覚障害に有効なことが知られており、また六君子湯は胃の蠕動運動を改善し、食欲不振に有効とされる。また柴苓湯は利尿作用があるため浮腫の治療に用いられるが本例では上肢のリンパ浮腫に著効を呈した。【結語】乳癌の治療に伴う食欲不振、舌痛症、味覚障害、リンパ浮腫の治療に漢方薬は有用と思われる。

31. 群馬ナースヘルス研究コホートをを用いた女性特有疾患におけるSNPs解析

富吉 賢作, 林 邦彦, 嶋田 淳子

(群馬大院・保・生体情報検査科学)

近年、女性特有疾患である子宮筋腫、子宮内膜症、子宮内膜癌の発症に一塩基多型 (SNP) が関与していることが報告されている。そこで健常女性のこれらの疾患に対するSNPsを解析し、アリルタイプを決定するとともに、人種間の比較を行うことを目的とした。

【方法と対象】対象者は本学で長年研究が実施されている女性コホートである群馬パイロットナースヘルス研究